琉球大学学術リポジトリ

平成18年度　障害児教育実践センター活動報告

メタデータ	言語:
	出版者: 琉球大学
	公開日: 2007-07-26
	キーワード (Ja):
	キーワード (En):
	作成者: -
	メールアドレス:
	所属:
URL	http://hdl.handle.net/20.500.12000/1193

琉球大学教育学部障害児教育実践センター紀要
№8，79-85，2006.

平成１８年度　障害児教育実践センター活動報告

１．臨床支援教育活動

本センターは障害児教育に関する基礎的研究、臨床的研究、そして教育方法の開発等を行うとともに教育相談や研修活動を通じて地域社会に貢献することを目的にしている。本年度より、地域社会に貢献するため定期的に大学教員、学生、院生、現職教員等が軽度発達障害をもつ子どもや気がかりな子どもたちとの臨床実践支援を行う集団活動を始めた。この活動は地域支援を行うとともに学生、院生、現職教員にとっては特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動である。障害児教育実践センターは特別支援教育に貢献する教員を教育することを最重要課題として位置づけて地域への臨床支援と臨床教育活動に力を入れて取り組んでいる。

（1）個別臨床活動

本センターでは、個別臨床活動支援として母親面接、教員面接、子どもへの臨床支援を行っている。臨床支援として発達支援、教育学習支援、適応支援、子育て支援を行っている。１月27日の特別支援セミナーにおいて試行したアンケート結果により大学が相談機関として地域貢献の必要性を訴える要望が大きかった。特に学校現場においては軽度発達障害をもつ子どもたちや気がかりな子どもたちの対応がとても困難となっており、専門性の高い信頼できる相談機関を地域が求めており特別支援教育のスタートによる学校現場の戸惑いが強く感じられる結果となった。

（2）集団臨床活動

研究指定校の沢岻小学校に在籍する子どもを中心に、来所に訪れた子どもたちのなかで集団適応を困難とする子どもには実践トータル支援活動に参加してもらった。この活動は子どもたちを支援するとともに大学と小学校が連携することにより特別支援教育の支援体制のより良い方向性を求める活動であるが、現在は模索的であり試行錯誤の段階である。学生、院生、現職教員にとっては特別支援教育のための実践トレーニングが可能となる活動であり、今後はネットワークの輪を広げて、センターの活動への参加によりひとりの子どもたちと関わる視点を学び、子どもたちへの支援、現場の特別支援教育への還元を目的としている。

（3）臨床支援ケースの概要

平成18年２月から平成19年１月までの２年間のセッション月別セッション数を表１に示した。来所相談、訪問相談を合わせて、セッション数は総計255回になった。昨年度より相談件数が増えたことは相談依頼を積極的に受けていくセンターの体制が整備されてきていることが大きい。今後はセンターのプレイルームを整備し、さらに地域に支援していく方針である。表１の実践トータル支援プログラムは11月から開始したので10月までの数値は記入されていない。

（4）臨床支援ケースの診断別内訳

表２には診断別内訳を示した。相談ケースで最も多いのがアスペルガー障害、次に学習障害、ＡＤＨＤとなっている。いわゆる軽度発達障害をもつ子どもたちの相談が約65パーセントを占めていることが分かる。軽度発達障害児への教育心理相談のニーズの高さが示された。

（5）臨床支援ケースの地域別支援内訳

宜野湾市、浦添市、西原町など大学周辺の市町

表１　臨床活動セッション数

	2月	3月	4月	5月	6月	7月	8月	9月	10月	11月	12月	1月	合計
親面接（カウンセリング含む）セッション数	7	7	10	11	9	7	11	7	9	8	10	6	102
教員面接(スーパ-ヴィジョン含む）セッション数	6	6	9	7	10	9	6	7	16	10	9	2	97
子どもへの発達・教育学習・適応支援（心理療法含む）セッション数	4	4	4	4	4	4	5	3	4	5	4	4	49
実践トータル支援プログラム（集団適応支援）セッション数	—	—	—	—	—	—	—	—	—	3	2	2	7
セッション総計	17	17	23	22	23	20	22	17	29	26	25	14	255

表２　臨床活動　診断別内訳

診　断　名	事　例　数
アスペルガー障害	10
学習障害	7
注意欠陥多動性障害（ＡＤＨＤ）	6
知的障害	4
広汎性発達障害（自閉症）	2
聴覚障害	2
肢体不自由	2
情緒障害（虐待）	2
計	35

表３　相談ケースの地域別内訳

相談ケースの地域別内訳	事　例　数
宜野湾市	12
浦添市	12
西原町	5
名護市	2
那覇市	1
沖縄市	1
南風原町	1
中城村	1
総　計	35

村からの相談が約８割を占めた。那覇市からの相談が少ないことが特徴であった。しかし、南部は南風原町から北部は名護市まで沖縄本島の各地から相談者が来所した。特に北部に関しては国頭教育事務所に訪問して相談活動の案内を配布したことによる影響が大きかった。

２．社会教育活動

10月より特別な支援を必要とする子どもたちと特別支援教育について学ぶ意欲のある学生、院生、現職教員、さらに子どもたちの通う学校がともに関わりをもつ実践トータル支援プログラムをスタートさせた。専門機関としての大学の障害児教育実践センターと公立の小学校とが連携して子どもたちを支援するこの活動のねらいが高く評価されて、ＮＨＫが取材に訪れた。その活動の様子は２月９日（金）のＮＨＫ総合テレビ、19時30分～55分の『沖縄潮流』で放映され、視聴者から多くの評価を得た。

（１）実践トータル支援プログラム

保護者や学校から軽度発達障害児における特別な支援を必要とする子どもたちの実践支援の要望を受けて、実践トータル支援プログラムをスタートさせた。以下のような目的で活動している。

①特別な支援を必要とする子どもたちやその保護者への支援

②支援活動を通して子どもたちやその保護者への特別支援教育について学ぶ学生や現職教員への実践教育支援

③学校との連携支援

支援活動は、大学院生、小学校、中学校、特殊学級、養護学校の現職教員の参加により個別支援活動、集団支援活動、子育て支援講座を同時進行で行っている。以下のような支援課題と目的で活

動をしている。

1）個別支援活動

発達支援においては関係性に基づいた「生きる力を引き出す」ことを目的とし、教育学習支援においては発達の視点に基づいた「生きる力を育てる」ことを目的としている。

2）集団支援活動

適応支援においては情緒の豊かさとメンタルケアに基づいた「生きる力を支え活かす」ことを目的としている。

3）子育て支援活動

子育て支援においては子どもをもつ親の気持ちを支え、子どもたちの「生きる力を大切にする」子育て支援を目的にしている。子育て支援の時間に以下の講座を開いた。

子育て支援講座

・第１回　奥田実センター長によるあいさつ
・第２回　センター専任による活動の説明
・弟３回　沢岻小学校校長による特別支援教育の本質についての講話
・弟４回　美咲養護学校教頭による特別支援教育センター校としての取り組みの講話
・第５回　保護者との交流、特別支援教育の現状について
・第６回　保護者から話題提供、早期支援の必要性について

水曜日、月２回のペースで琉球大学50周年記念館を会場として以下のような多くの参加により支援活動を行った。ここでは11月から１月までの活動を示す。

・第１回　日　時：11月１日　18時
参加者：53人

子ども：８人、親：８人、学生：27人（障害児教育、島嶼文化教育、特別専攻科、大学院生）、教員：８人（養護学校、小学校、中学校、特殊学級、非常勤）、センタースタッフ：２人

・第２回　日　時：11月８日　18時
参加者：４８名

子ども：８人、親：６人、学生：24人（障害児教育･島嶼文化教育･特別専攻科、大学院）、教員：８人（養護学校、小学校、中学校、特殊学級、非常勤、ヘルパー）、センタースタッフ：２人

・第３回　日　時：11月15日　18時
参加者：48名

子ども:7人、親:7人、学生:24人（障害児教育･島嶼文化教育･特別専攻科など）、教員：８人（養護学校、小学校、中学校、特殊学級、非常勤、ヘルパー）、センタースタッフ：２人

・第４回　日　時：12月６日　18時
参加者：52名

子ども：７人、親：８人、学生：27人（障害児教育、島嶼文化教育、特別専攻科、大学院）、教員：８人（養護学校、小学校、中学校、特殊学級、非常勤）、センタースタッフ：２人

・第５回　日　時：12月20日　18時
参加者：48名

子ども：７人、親：８人、学生：24人（障害児教育･島嶼文化教育･特別専攻科、大学院）、教員：８名（養護学校、小学校、中学校、特殊学級、非常勤、ヘルパー）、センタースタッフ：２人

・第６回　日　時：１月17日　18時

ＮＨＫ総合テレビ、19時30分～55分の『沖縄潮流』の取材が入った。

参加者：45人

子ども：６人、親：６人、学生：25人（障害児教育･島嶼文化教育･特別専攻科、大学院）、教員：８名（養護学校、小学校、中学校、特殊学級、非常勤、ヘルパー）、センタースタッフ：２人

（2）公開セミナーとセンター活動報告

地域社会への貢献を目的に公開セミナーおよびセンター活動の報告を行った。さらに新規事業の実践活動の映像を使用した報告、また、特別支援の実践研究に関しては各支援部門の担当者から報告、連携協力学校の先生からの報告を行った。さらに学校での特別支援の取り組みを活動スタッフの現職教員野里宏美氏に報告してもらった。学校参加者に実践から学ぶ教育の機会を提供することができた。本センターにおいてもアンケートによる地域のニーズの収集や活動への関心の度合いを確認することができた実りある会となった。

現職教員、保育士、保護者のみならず、県教育委員会、市町村教育委員会から多くの特別支援教育に熱心な関係者が参加した。また、教育の領域

を超えて医療や福祉の多くの専門家が参加し、大きな関心を得ることができたセミナーとなった。

公開特別支援セミナー
「特別な支援を必要とする子どもたちの発達の理解と援助」
・センター活動報告、および実践トータル支援活動の研究報告
適応・メンタル支援
　研究報告者：崎浜朋子：美原小学校
発達・学習支援
　研究報告者：佐和田聡：大平養護学校
　研究報告者：真喜屋祥子：美咲養護学校
子育て支援
　研究報告者：浦崎武：障害児教育実践センター専任
活動連携学校
　活動報告者：上間茂樹：沢岻小学校校長
　活動報告者：崎原正美　：沢岻小学校コーディネーター
・講演
講師と演題：
麻生武（奈良女子大学教授）「気がかりな子どもの発達の理解について」
山上雅子（京都女子大学教授）「気がかりな子どもとの関わりの実際について」
・実践事例研究報告
　実践事例研究報告者　野里宏美：中学校教員
日　時：１月27日　土曜日　13時～17時
会　場:沖縄県男女共同参画センター「てぃるる」
参加者：約200人

（３）離島支援活動

八重山支援については障害児教育専修、田中に講演会講師（６月29日）、相談会の協力を得て活動を行った。宮古支援については障害児教育専修、緒方に相談会の協力を得た。６月28日、八重山支援については奥田センター長と浦崎は八重山教育事務所、石垣市教育委員会、竹富町教育委員会、八重山教育委員会を訪問し、今後支援のあり方、要望について話しあった。また、８月18日には宮古支援において奥田センター長は宮古教育事務所、宮古島市教育委員会、宮古養護学校へ訪問し、今後の支援のあり方について話しあった。八重山教育事務所から与那国島にも支援をして欲しいとの要望を引き受けて、12月14日、15日に与那国島相談会および講演会を開いた。国頭教育事務所へ８月30日に訪問し、北部地区の相談支援活動についての情報収集を行った。

①相談活動
八重山相談会　６月28日
　場所：八重山教育事務所　相談者：11人
宮古相談会　８月18日
　場所：働く婦人の家
　ゆいみなー　相談者：10人
八重山相談会　11月６日
　場所：八重山教育事務所
　相談者：10人
　７日　場所：八重山教育事務所
　相談者：４人
与那国相談会　12月14日
　場所：与那国町中央公民館
　相談者：２人
　15日　場所：与那国町中央公民館
　相談者：３人
②教育研修会
八重山講演会　　６月29日
　講　師：田中敦士
　日　時：６月29日　木曜日
　会　場：八重山教育事務所
　参加者：60名
与那国講演会　12月14日
　「特別支援教育を必要とする子どもたちのこころの風景」
　講　師：浦崎武
　日　時：12月14日　木曜日　19時～
　会　場：与那国町中央公民館
　参加者：30名
③学校訪問
与那国学校訪問　12月15日
　場所：久部良小学校
　相談者：２人
　久部良中学校　　相談者：１人

（４）学校、保育園訪問支援活動

本年度は浦添市、宜野湾市を中心に学校、保

育園の訪問支援を行った。７学校に訪問し相談を受けた。そのうち４校は定期継続の訪問支援となった。

（5）他機関との連携支援

①就学相談会　県立総合教育センターへの協力
６月８日～７月21日

県立総合教育センターが開いている就学相談会に障害児教育専修スタッフのサポートを得て、相談員として連携協力を行った。

②特別研修会　日本精神障害者リハビリテーション学会との共催

障害児教育専修の田中が日本精神障害者リハビリテーション学会と共催で特別研修会を開いた。多くの参加者が集まり実りある研修会となった。

『障害のある人のケースマネジメント』
講　師：野中猛（日本福祉大学教授）
日　時：12月23日　土曜日
13時～17時30分
会　場：法文学部215教室

③教育研究支援　研究指定校沢岻小学校との連携研究

３．学生、院生教育活動

（1）実践トータル支援プログラム

軽度発達障害をもつ子どもたちや気がかりな子どもたちとの活動を通して子どもたちとの関わり方や支援のあり方を学び、特別支援教育に貢献できる学生を育成することを目的として実践教育を行っている。学生は「障害児臨床心理学」、院生は「特別支援教育特論」「障害児教育実践研究」の臨床実践分野の授業による理論とともに実践教育を学んでいる。

（2）センター専任教員の授業担当

センター専任教員は、障害児教育専攻の授業を担当している。平成18年度は、特別専攻科及び大学院以下の授業を担当した。

１年、特専「障害児教育観察」
２年、特専「情緒障害児教育」
３年　　「障害児心理検査法」
３年、特専「障害児臨床心理学」
大学院　「特別支援教育特論Ｂ」
大学院　「障害児臨床心理学特論」
大学院　「軽度発達障害者支援特論」
大学院　「障害児教育実践研究Ｖ」

（3）センター専任教員の卒業論文、修士論文の指導

卒業論文について

平成18年度においては、計２名の障害児教育専修の学生の卒論指導を行った。２名はセンターの臨床活動、および集団臨床活動にも参加している。この２人の卒業論文のタイトルは以下のようになっている。

・交流教育場面における支援者の介入による自閉傾向のある生徒と交流学級生徒との関係形成支援
・ＡＤＨＤと診断された児童への関係形成による支援と自己肯定感の変容～プレイルーム・通常の学級での関わりを通して～

修士論文について

修士論文に関しては、１名の院生（障害児教育専修）の指導を行った。この1名はセンターの集団臨床活動にも参加している。論文の題目は以下のようになっている。

・小・中学校における特別支援教育コーディネーターの役割－やる気を高めるための個別的な支援と母親との面談を通して－

４．研究教育活動

（1）　プロジェクト－軽度発達障害児のアセスメントとコンサルテーション－

８月から10月にかけて障害児教育専修の神園が中心となって浦添市教育委員会の依頼を受けてプロジェクトを行った。ＷＩＳＣ－Ⅲの心理テストの試行は学生３人、院生２人、特別専攻科学生３人に協力を得た。心理テストの結果に基づいて神園、センター専任浦崎が報告書を作成した。対象は市内の小学校の児童とし、要望を受けた７校、15人の児童のアセスメントとコンサルテーションを行った。

（2）実践事例研究報告会

10月から月１回定期、水曜日に琉球大学50周年記念館で院生、現職教員、コーディネーター、障

害児教育、特別支援教育関係者が参加して実践研究を行っている。第４回は特例会として麻生武(奈良女子大学)、山上雅子（京都女子大学）がコメンターとして参加された。10月から１月までの事例の発表者、タイトル、参加者は以下のようになっている。

・第１回　実践事例研究会（特別支援教育実践部会）
　発表者　：美咲養護学校　小学部教師
　タイトル：『母子の関係のあり方に問題をかかえる事例について』
　日　時：10月18日　18時
　参加者：21名（養護学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）
・第２回　実践事例研究会（軽度発達障害者教育実践部会）
　発表者　：美浜小学校　教師
　タイトル：『軽度発達障害児と母親の支援の難しさについて』
　日　時：11月29日　18時30分
　参加者：21名（養護学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）
・第３回　実践事例研究会（特別支援教育実践部会）
　発表者　：美咲養護学校　小学部教師
　タイトル：『障害をもつ子どもの学校における関わりについて』
　日　時：12月13日、18時30分
　参加者：21名（養護学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、大学院生など）
・第４回　特例実践事例研究会（発達臨床実践部会）
　発表者　：ゆうわ保育園　保育士
　タイトル：『障害をもつ幼児の育ちと３年間の関わり』
　日　時：１月26日、18時30分
　参加者：44名（養護学校教師、小学校教師、中学校教師、保育士、学生、大学院生など）

（3）定期刊行物の発行

定期刊行物として「障害児教育実践センター紀要」を発行している。2006年３月には第７号を発行した。

（4）実践研究報告

１月27日（土）のセミナーで実践事例研究の報告を行った。実践トータル支援アプローチについて麻生武（奈良女子大学）氏は、「色々な世代の人が関わりをもつ、この活動は子どもの成長にとって現在、失われつつある活気のある昔の公園での大切な人間関係作りや人間の発達の原点がある」とコメントされた。また、山上雅子（京都女子大学）氏は「身体、関係性、生活、認識を重要な視点であること、子どもたちとの実践から学ぶことが大切である」と話された。

（5）研究資料の提供

本センターの活動に関することや障害をもった子どもたちや気がかりな子どもたちと関わる視点を資料としてまとめて提供した。

（6）科学研究費の交付

センターにおける活動の基礎となる軽度発達障害児との関わりの在り方について、センター専任教員浦崎は実践事例研究に関する科学研究費の交付を受け、次の名称で実践研究を行っている。

・軽度発達障害者への重要な他者との関係の形成による支援と特別支援を行う機関との連携

2006年～2007年にかけて科学研究費の交付により実践研究課題に基づいて次の名称により論文をまとめた。

・2006年３月、広汎性発達障害者の身体の外枠作りと内枠作りによる心理療法－他者との関係性の成立と発達的支援－　第７号　1-14

・2007年３月　高機能広汎性発達障害をもつある小学生男子への重要な他者との関係形成による適応支援　第８号　1-18

5. その他の活動

（1）国立大学障害児教育関連施設・センター連絡協議会について

障害児教育関連施設センター連絡協議会が群馬大学で開かれ、以下のことが決まった。

9月18日　月曜日　群馬大学　11時35分～

・来年度のセンター連絡協議会共催セミナーの開催（琉球大学）

（2）その他の社会的活動

センター専任　浦崎武

・特殊教育相談等支援体制整備事業に係わる運営
　協議会　美咲養護学校　会長
　運営協議会の開催　7月31日、12月21日
・宜野湾市保育園巡回相談員
・座間味村適正就学委員会委員
・沖縄市特殊教育研究会
　「心理検査の理解と操作について」
　日　時：8月2日　水曜日
　　9時～11時30分
　会　場：沖縄市教育研究所
　参加者：50人